

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490800238		
法人名	株式会社明日葉		
事業所名	グループホームあした葉 結の家みやがわ		
所在地	三重県伊勢市佐八町712番地1		
自己評価作成日	平成 28年 10月 25日	評価結果市町提出日	平成28年12月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2490800238-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2490800238-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 11 月 16 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平成26年4月1日にオープンした。理念は事業所の名前にもあるように利用者、家族、地域を『結の心』で結び、利用者にとって心安らぐ『第2の我が家』になることを目指している。当施設は山々に囲まれ自然豊かな環境の中、隣には保育園もあり、賑やかな声が聞こえ園児達の散歩コースにもなっている。利用者の誕生会には手作りのケーキと本人の一番食べたいもので祝うようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議の提案で取り付けられた事業所の看板を目印に行くと、四季折々に変化する裏山の木々が施設の居間や居室の窓から見え、来訪者や利用者の心を和ませてくれる。理念の「第2の我が家」を目指し、利用者をお客様のように「上げ膳」「据膳」にはしない工夫をしている。代表者が理学療法士でもあり、利用者の残存能力の維持継続に配慮しつつ、自分で出来ることは食事の配膳・下膳・洗濯ものを干したり畳んだりの一連の行為をし、生き生きとした時間を持っていただく工夫がされている。また、施設内に掲示されている行事写真や「あしたば新聞」で、利用者の普段の暮らしぶりがわかると家族から喜ばれている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「第2の我が家」結の心で利用者と家族、地域社会を結ぶ。この理念と共に「目配り」「気配り」「心配り」を忘れないように、会議毎に確認しあっている。	基本理念を玄関に掲示すると共に、目配り・気配り・心配りの「3配り」を大切に、管理者・職員全員が理解し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに利用者と参加したり、隣接する保育園の運動会に招待される等、少しずつ地域とのつながりが出来てきている。	隣が保育園であり、雨の日などは境界の扉を開けて園児たちの近道としている。園長であり住職であるお寺で行われる「かんど踊り」には利用者と共に参加したり、日常的に地域住民と交流を深める取り組みをしている。	地域との交流は大切であり、地域の行事への参加や事業所の行事に地域の人に来ていただいたりと普段から地域との相互関係を築いてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を中心に認知症の方々への理解を深めていただけるように説明し、グループホームでの生活について支援いただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、施設行事や研修計画などを取り上げ報告すると共に、施設運営の向上についての意見をいただいている。出席いただいた構成員からハーモニカ演奏のボランティアなどを紹介していただき、サービス向上につなげている。	年6回開催しており、地域包括支援センター・区長・民生委員など、たくさんの参加を得て情報交換など行われている。いただいた助言（施設の分かりずらさから看板の設置など）は大いに役立てている。	メンバーの構成を更に広げると共に、次回の議題を載せて各参加者より多くの意見をいただき、今後の運営に反映させてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関して疑問がある際には、すぐに行政に相談するようにしている。また行政への届け出の際には、適宜施設の運営状況を伝えるよう心掛けている。	市担当者に運営推進会議へ参加してもらい、各種の相談や行政情報などを聞かせてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、スタッフ会議等の中で、身体拘束について話し合い、身体拘束0を目指したケアを心掛けるよう確認している。	年間計画表に沿って内部研修をし、スタッフ会議などでマニュアルの作成や拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、スタッフ会議等で、高齢者虐待について話し合い、不適切ケアをしないように確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ取扱い事例がなく、権利擁護に関する研修等の機会は持っていない状況。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を元に説明を入念に行っている。特に利用料金については別紙を用意し説明、納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には通院や面会等で来所された時など話しかけ、何でも気軽に相談していただけるような雰囲気作りに留意している。	家族面会時に意見や要望を聞く工夫をしている。聞いた用件は緊急度に応じて「申し送りノート」に記入し全職員間で共有し、検討している。又、年4回「あした葉新聞」を発行し、利用者の暮らしぶりを伝えて感想を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を月1回行い職員の意見を聞いている。会議は各自の都合に合わせて日を設定することで出来る限り多くの職員が参加出来るように工夫している。	代表と年2回の個人面談があり、自己評価表を提出する機会を設けている。職員からは日々のミーティングも含めて、多くの意見や提案が出てケアサービスに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には資格取得の機会を設け、それを給与に反映し意欲向上できるように努めている。雇用関係の相談などは概ね半年に一度個人面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が受講するように働きかけている。未経験の新人職員には介護職員初任者研修の受講を促し、その助成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年12月に四日市看護大学から講師に来てもらい研修会を開催。また個別に研修会への参加を促し、職員の質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時は、必ず面談し、心身の状態を見、思いを聞き、本人に受け入れてもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活、苦労した経験等をゆっくり聞くようにしている。その中でニーズを知り、次の段階につなげていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の思い、状況を知り、話を聞く中で信頼関係を築き、必要なサービスにつなげるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に人生の先輩として教わる事が多く、調理の際には味付けや下処理の方法を聞き、時には手伝っていただくなど、共に生活していることを感じていただけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に第2の我が家と銘打っている趣旨を説明し、ご家族様と共に家に住まわれている時と変わらない支援を施設職員と共にお願いさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行きつけの床屋、心の拠り所の道場、主治医の継続等、家族の協力をお願いする等しながら馴染みの関係が途切れないようにしている。	入居時に本人・家族から馴染みの関係を聞き取り、入居後も利用者の会話の中で把握している。家族の協力で外食・外泊など、個々の希望に沿った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事の時間は職員も一緒に会話を楽しみながら摂る様にし、利用者同士仲良くなれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設を退所後、特別養護老人ホームへ入所された方を訪問する等、退所後も引き続き状況確認を行った事例がある。また退所者の次の入所先から情報提供を求められた際には必ず対応するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前、必ず事前訪問し、家族、本人から意向、要望を聞くようにしている。	管理者および職員は、個々の暮らしの中で表情・行動・会話から、時には寄り添い、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に本人、家族と話をする中で、生活歴を知り本人のことを理解できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを知り、その中でも特に、排便については注意し、安定した精神状態で生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日ごろの関わりの中で、また家族には通院、面会時に、そして職員にはミーティングやスタッフ会議の中で意見や思いを聞き取り、確認している。	介護計画は利用者の介護状況と業務日誌(個別台帳)を基に確認し、更新以外にも状況の変化に応じて主治医・家族の意見を聞き作成している。見直しは3か月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の利用記録に食事、排泄、入浴等や日々の暮らしの様子を記入し、全職員が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、入所時の迎え、急な通院介助等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター、区長、民生委員等の参加を得、地域で利用者が安心して暮らせるよう情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設は受診医療機関を指定することは無く、これまでと変わらないかかりつけ医での受診を勧めている。基本的には家族による通院としているが、不可能な時には、往診、又は職員による通院介助にも応じている。	かかりつけ医の利用者が数名いて、受信・往診の支援を行っている。受信結果は家族に電話などで報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の職員配置はない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診の際、1ヶ月の本人の様子、直近3日間のバイタル等情報を提供している。また、気になることがあればすぐ医師に連絡し、その対処方法を教えていただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の方針について、いまだ検討した事例は無く、今後の課題と考えている。	看取りについては、入居時に事業所として出来ること出来ないことを本人・家族に説明している。又、医師が重度化と判断した時点で再度、話し合いの場を設け、利用者にとって一番良い方法を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変した際の応急手当、AEDの使用法、また救急への通報の仕方などを反復して訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災、通報などを一斉に行う総合訓練を実施し、職員が適切な避難体制がとれるように周知させている。	年2回の防災訓練及び夜間想定訓練も行っている。職員の緊急連絡体制表や避難経路などは事務所に貼ってあり、救急救命講習にも参加している。非常食は有効期限を確認しつつ必要なものを補充している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩だという意識を強く持ち、常に敬意をはらって対応するように職員に周知させている。	共同生活の中でも、職員全員がそれぞれ反映できるように、プライバシーを損ねないようにしている。特に利用者の部屋に入る前の声掛けや日々の気配りには気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は選択肢を提案し、その決定権は利用者にあるということを忘れずに介護にあたるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望に応じた余暇活動や生活リズムで日々過ごすように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみには清潔感を大切に、季節の変わり目には職員からご家族様に連絡し、衣類等の交換をお願いしている。誕生日など特別な日には化粧を施すなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら調理し、職員も見守り介助を行いながら、一緒にテーブルを囲んで楽しく食事できるような雰囲気作りを大切にしている。	地産地消を心がけており、地元購入で職員が全部手作りしている。朝食にはパン・ご飯、それぞれ好みを聞き、職員と一緒に温かい間に食べるなど工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の支援の中で一人ひとりの食事量、水分量を把握している。個別に食形状を変えなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食前は口腔体操をしている。又、食後は一人ひとりに合わせて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意が乏しい方であっても昼間はリハビリパンツを用いて、時間とその間隔でトイレ誘導を行い出来る限りトイレで排泄出来るよう支援している。	職員間で利用者の排泄パターンを確認しながら声掛け誘導し、どの対応が一番良いかを検討している。1ユニットにトイレ数が多く、室温も快適で自立に向けた支援をし、成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分補給の一環でティータイムを設け、その際はミルクを飲んでいただく。おやつには寒天を用いる。更に腸の働きを良くするために散歩など運動を行っていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回の予定となっているが拒否があれば順序や時間を変更したり、翌日したり、清拭にするなど本人の気持ちに合わせて行っている。	入浴は週2～3回を基本としているが、個々の希望や健康状態にも配慮した支援をしている。座敷シャワー浴も完備されていて、その人に応じて入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共同生活としての一日の生活スケジュールはありつつも、個別に休憩したり、状況に応じた休息等、個々に応じた柔軟な対応を心掛けている。就寝時には2時間ごとの巡視を行い、肌蹴た服や布団を掛け直すなど丁寧な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を用いて、利用者が確実に服薬できるようにしている。個々の薬に応じた食べ物の禁忌なども必ず把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれに共同生活での役割をもつていただき、洗濯物干し、たたみ、食器の片づけ等能力に応じて出来る仕事を頼み、それに対して感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて花を見に行ったり、ドライブして公園などに行くようにしている。	天気の良い日は玄関前のベンチに座り日光浴をしたり、隣の保育園児を見に行ったりしている。四季の行事(お花見など)には出来るだけ出かけ、利用者の気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところ、個別にお金を支払う機会はないが、お金を所持することで気持ちが落ち着く方には持って来ていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の精神状態が不安定な時期には、こちらから家族に協力をお願いし、決まった時間に電話をいただいたり、声を聞かせてもらうなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然豊かな立地条件で窓から季節感を味わうことができる。また、利用者の様子を見ながら適度な明るさ、温度になるように心掛けている。	廊下や居間が広く明るい。すわり心地の良い椅子がところどころに配置され、利用者同士・職員と会話を楽しむ工夫がされている。2ユニット間を行き来し、リハビリ歩行も兼ねて楽しい時間を持ってもらう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けソファを準備し、くつろげるようにしている。また適宜テーブルの配置を入れ替え、居心地の良い空間づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた寝具や家具等を準備いただくよう働きかけている。部屋には家族の写真や飾り等、本人が落ち着くよう工夫している。	大きな窓の明るい居室の押入れは広く、ベッド・エアコン以外はそれぞれ好みの家具が置かれている。壁には家族写真やポスターを貼り、居心地良く過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室のネームプレートは自筆で名前を書いたり、折紙やヌイグルミなど目印をつけることで自分の部屋であることがわかるように工夫している。		